

農業

令和8年8月号
会誌 No. 1746



目次

巻頭言

健体康心のことは土壤に質せ……………陽 捷行 3

論壇

専門家に聞いてみよう……………夏秋 啓子 4

農業懇話会

アジアの伝統から拓くアグロエコロジー～持続可能な食と農の未来～
……………宮浦 理恵 6

地域セミナー 秋田

令和の米騒動から考える秋田の米づくり～生産者からの発信～……………21
解題……………長濱健一郎 21
基調講演 令和の米騒動を振り返る一何を教訓にすべきか—
……………小田嶋 契 22
実践報告……………川田 将平・桜田 善仁・柴田ますみ 28
パネルディスカッション……………34

農家の気持ち

農家として生き残るには……………山本 義明 36

農業・農村の現場から

有機ニンジンを核とした有機農業経営モデルの確立……………村崎将太郎 37

私の経営と志

兵庫県加古川市で父とトマトをつくる ……………大谷 圭祐 45
—地域に根ざした持続可能な農業を目指して—

東京農業大学収穫祭から

Eco & Bee Robotics—環境と養蜂の未来へ—……………小古間有輝 47

統計情報

2025（令和7）年産ミカンの作付面積および収穫量、 その他かんきつ類の栽培面積……………	51
2025（令和7）年産リンゴの作付面積および収穫量……………	52
農政情報……………	53
大日本農会だより……………	54
編集部から……………	54

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

阿蘇神社の御田植神幸式 (熊本県 阿蘇市)

阿蘇神社をはじめ関係社で行われる「阿蘇の農耕祭事」は、稲作儀礼の典型として1982（昭和57）年に国重要無形民俗文化財に指定されています。なかでも毎年7月28日に行われる「御田植神幸式（おんだ祭）」は、神々が稲の生育を検分する、一連の農耕祭事で最大規模の神事です。

神幸式は、4基の神輿を中心に白装束の女性「宇奈利」や田男・田女など約200人が青田を練り歩きます。神輿に苗を投げ上げる「田植式」があり、多くの苗が載れば豊作になるとされています。13世紀末には存在がわかる史料があり、肥後国レベルの重要な神事でした。近世からは行列の進行で田植歌が謡われる等、行列は時代のなかで変容を遂げています。

現代は米の品種改良で農事が早まり、祭日と実農事の時期が整合せず稲作儀礼の意味が理解されにくい現状にあります。一方で、農耕祭事は伝統行事として文化財の付加価値を有しながら、地域振興や観光資源の役割を担うようになりました。農耕文化本来の意義を正しく伝えることが課題となっています。

（写真および文：阿蘇神社 文化財担当（学芸員）池浦 秀隆）